

シリーズ3，富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑩

職藝学院

教授 渡邊 美保子

コレオプシス ‘ザグレブ’

コレオプシスは、北アメリカ原産の宿根草で別名イトバハルシャギクといわれています。ザグレブは、草丈40cmほどの品種です。別名の名前のおり、糸のような葉を持ち、6月の中旬には花壇を黄金色に染めつくします(写真1)。太陽の光と向かいあって咲いている姿を見ると元気がでます。同じ仲間にオオキンケイギクがありますが、日本の在来種に悪い影響を及ぼすため栽培が禁止されています。お庭に植えている方は、根っこごと掘り取り駆除してください。



写真1：後方からコレオプシス、ピオラ(紫)、銅葉ミツバ

コレオプシス ‘ザグレブ’ は、6月初旬になると、茎の先端に4cmほどの小菊に似た花を一つ咲かせます。この一番初めに咲く花のことを一番花といいますが(写真2)、一番花の見ごろは約5日ぐらいいちばんかです。一番花の花弁がよれよれになった頃には、花茎を約4cmほど下にたどると、節から向かいあって伸びた2本の茎の先に、それぞれ二番花が咲き始めます。二番花がくたびれた頃、その4cm下にある節から向かいあって伸びた2本の茎の先では、淡いレモン色の三番花のつぼみが次の出番を待っています。またまた、そのつぼみの約4cm下の節には、向かいあって伸びた2本の茎の先に、固く閉じた四番花のつぼみが細葉に守られながら気長に順番待ちをしています。コレオプシス ‘ザグレブ’ は、順番通りに規則正しく花を咲かせる几帳面な宿根草なのです。一つの花の開花は5日程度ですが、観賞できる期間は、かれこれ3週間ほどになります。一番花が咲き終わると、花の中心は真っ黒くなってしまい、次に咲いてくる黄色の花がくすんで見えてしまいます。ぴかぴかに光る黄金色の花壇を楽しみたいなら、咲き終わった花を茎ごと丁寧に刈り込んでおきましょう。



写真2：コレオプシスの一番花、6月初旬

コレオプシスは、地下茎を横に伸ばし広がってゆきます。苗を植えた年は、ほとんど横に伸びる気配はありません。しかし、ひと冬越す度に自分の陣地を広げてゆきます。ところが、お隣さんにぶつかると、お隣さんを気づかうように、広がるスピードを落とします。他の種類の宿根草や一年草にも気配りができます。また、地下茎に水分と養分をため込んでいるおかげで、乾燥や少々の日照りにもよく耐えてくれます。たくさん肥料を食べたがることもありません。どんどん広がってほしい方は、コレオプシスの根が自由に伸びてゆける水はけが良くふかふかの土と、日当たりのよい場所を準備してあげてください。一度花壇を覆ってしまうと、その中には雑草が入り込めなくなるのでお手入れが楽になります。

コレオプシスと組み合わせる植物は、手前には草丈20cmほどの一年草や宿根草をお勧めします。コレオプシスの後ろには、草丈が60cm程度の宿根草を組み合わせるとバランスが良くなるでしょう。黄金色の花の開花時期と合わせて、白や紫系統の花の色を組み合わせると引き立ちます(写真3)。



写真3：手前からコレオプシス、フランネルソウ(白)、サルビア・ネモロサ(紫)